

学校保健委員会だより



1月27日（金）学校医の静先生、学校薬剤師の竹部先生をお招きし、学校保健委員会を開催しました。

学校保健委員会とは、高北生の心と身体の健康の保持増進のためにおこなう会議です。メンバーは生徒、職員、専門家（学校医）、PTAの各代表です。今年度もコロナ禍であるため、PTAの皆様には紙面報告とさせていただきました。

今年度のテーマは「献血普及活動報告」「保健委員が主体となり行動する感染症対策」です。発表スライドについては本校のホームページに掲載させていただきますので、ぜひご覧ください。

献血普及活動報告



校内の献血者を増やすためには、献血について知ってもらうために、私たち保健委員がどのようなアクションを起こせばよいか探求しています。献血未経験者の人にはぜひみていただきたいスライドです。

発表を聞いた生徒の感想

- 献血活動にほとんどかわりがなく知りませんでした。献血が必要な理由や需要が高まっている等、社会の現状を知ることができました。
- 献血に対して関心を持ち、人のためになるという思いを持つことが大切だと思った。不安や恐怖を持っている人を少しでも緩和できるような取り組みをしていきたいと感じた。
- 献血について知らないことが多かった。来年は自分も献血に参加したい。
- 来年から受けられる献血について事前に知ることができ、自分自身で受けるかどうか決める決断に繋がる内容でわかりやすかった。
- 高北生が献血について、どのように思っているかわかり、この結果を学校保健委員会だけでなく、全校生徒へ伝えることで、来年はもっと献血に協力する人が増えるのではないかと考えた。

保健委員会が主体となり

行動する感染症対策



長引くコロナ禍での学校生活。校内でコロナを流行させないために保健委員が主体となり行った感染症対策や意識調査結果、二酸化炭素濃度を測定した実態調査の報告です。集団感染しないためのヒントがたくさん載ったスライドです。

発表を聞いた生徒の感想

- 自分は感染症対策ができていると思っていても、二酸化炭素濃度測定結果を見ると、まだ換気が足りなかったと思ったので、もっと呼びかけの必要性を感じた。
- ペアワークやグループワークが増えている今、休み時間の換気が必要であることの重要さがわかった。
- 高北全体で感染症対策はできていると感じていたが、発表を聞いて、意外にも換気や手指消毒などができていないことがわかった。よりよい感染症対策のためにすすめていくべきことがわかった。
- 冬になると寒いという理由で換気をせず、感染症流行の媒体を作り出してしまうのが大きな課題だと思う。二酸化炭素濃度の基準値内となるよう、こまめに換気をしていきたい。



☆学校医の静先生からの指導助言

これだけ多くの生徒が献血に協力しているのは大変すばらしいこと、是非続けていってほしい。献血の需要と供給結果を調べるとさらにわかりやすくなる。貧血気味の人は、鉄分をイメージしているよりも多めに摂取するとよいと思う。

☆学校薬剤師の竹部先生からの指導助言

二酸化炭素濃度測定は見応えのあるデータであった。学校では二酸化炭素濃度を1500ppm以下になるよう、対角線上で窓を開け常時換気しましょう。忘れがちなのが廊下です、少しでもよいので窓を開けましょう。